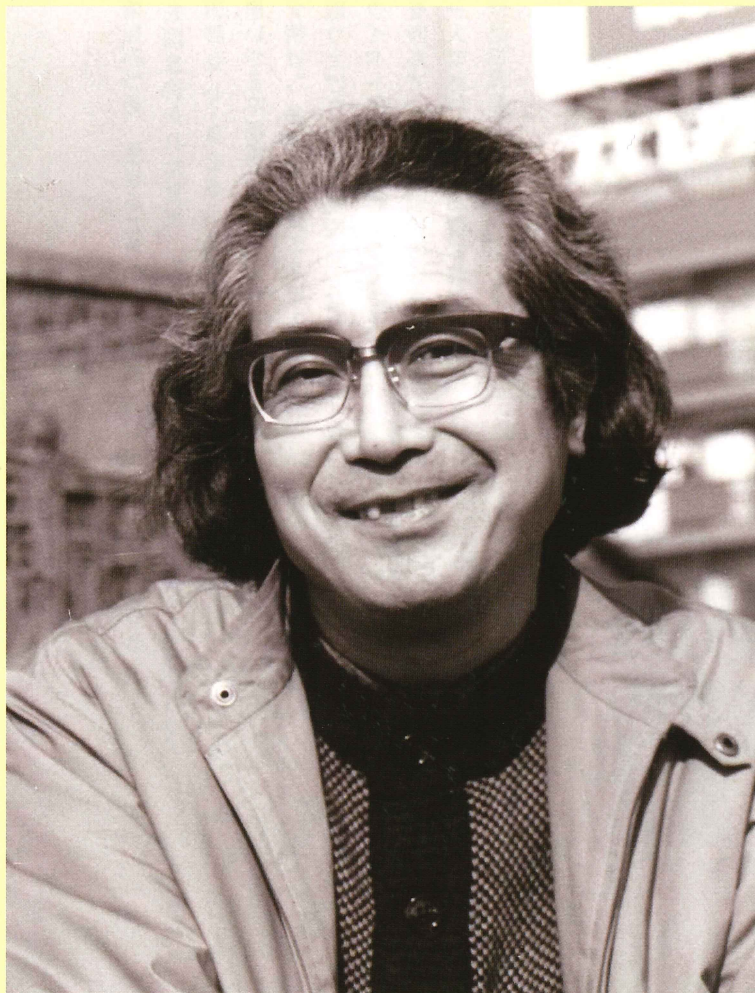


詩人・吉野弘の世界



吉野弘(1982年)

お父さんが
お前にあげたいものは
健康と
自分を愛する心だ。

ひとが
ひとでなくなるのは
自分を愛することをやめるときだ。

自分を愛することをやめるとき
ひとは
他人を愛することをやめ
世界を見失ってしまう。

(「奈々子」より)

2020年
8月9日(日)~9月27日(日)

[休館日] 月曜日(ただし8/10・9/21は開館、8/11・9/23は休館)

[開館時間] 9:30~17:00

[会場] 徳島県立文学書道館 1階特別展示室、3階収蔵展示室

[観覧料] 一般 520(410)円 高校・大学生 360(290)円
小・中学生 260(200)円

*()内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。小・中・高校生は土・日・祝日・夏休み期間中は無料。

関連イベント

◇講演会「父・吉野弘を語る」 ※申込必要(先着100人)

8月23日(日) 14:00~15:30

講師/久保田奈々子(吉野弘長女)

◇講演会「生命の核、詩の核—吉野弘の世界」 ※申込必要(先着100人)

8月30日(日) 14:00~15:30

講師/小池昌代(詩人)

◇朗読会「吉野弘を読む」 ※申込必要(先着100人)

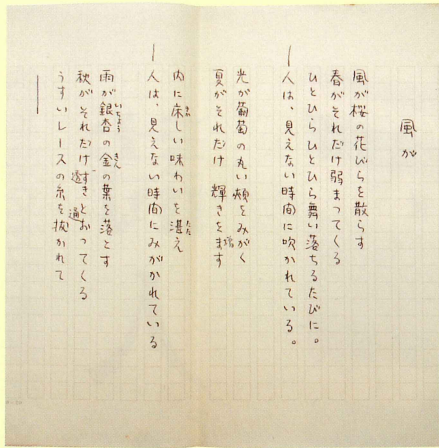
9月6日(日) 14:00~15:00

朗読/岩瀬弥永子(元四国放送アナウンサー)

ギター演奏/平岡範彦

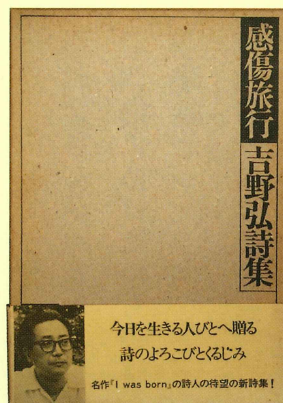
主催/徳島県立文学書道館

後援/徳島新聞社、四国放送



端正な字で書かれた自筆原稿「風が」(部分) (個人蔵)

日常をみつめ、生きることの喜びや悲しみを磨き抜かれた言葉で表現した詩人・吉野弘(1926—2014年)。人を思いやる不器用な娘の受難をうたった「夕焼け」、結婚披露宴のスピーチでよく取り上げられる「祝婚歌」など、温かみでウイットに富んだ詩は多くの人々の共感を得ています。戦後の代表的な詩人の一人であり、今なお愛され続ける吉野の作品世界を紹介いたします。



第23回読売文学賞を受賞した詩集『感傷旅行』(1971年 葡萄社)



娘二人と(右端が奈々子、中央が万奈 1962年)

やさしい心の持主はいつでもどこでもわれにもあらず受難者となる。何故ってやさしい心の持主は他人のつらさを自分のつらさのように感じるから。やさしい心に責められながら娘はどこまでゆけるだろう。下唇を噛んでつらい気持で美しい夕焼けも見ないで。

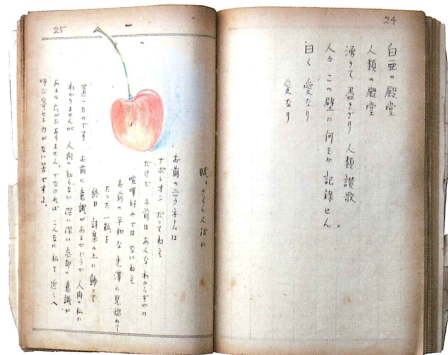
(「夕焼け」より)



詩人の茨木のり子と(京都 1978年)

二人が睦まじくいるためには愚かであるほうがいい立派すぎないほうがいい立派すぎることは長持ちしないことだと気付いているほうがいい完璧をめざさないほうがいい完璧なんて不自然なことだとうそびているほうがいい

(「祝婚歌」より)



手作り詩集
20代初めの頃の5冊の詩集(手書き)を自分で合本したもの。吉野の死後に書斎から発見された(個人蔵)



愛用の硯と筆(個人蔵)

関連イベントの申込方法

はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号をご記入の上、お申し込みください。当館1階受付でも申し込み可能です。

交通アクセス(JR徳島駅から)

■徒歩 約15分

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して300m。徳島中学校東隣。

■タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。

■バス

【徳島市営バス】7番乗り場「川内循環(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。
【徳島バス】2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

■駐車場

当館北側にあります(43台、大型バス2台)。

